

# 海外のRDM支援事例

---

## ワーゲニンゲン大学／ケンブリッジ大学

第17回月刊JPCOAR – 2023年2月15日(水)

国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会タスクフォース

東京大学附属図書館 尾城友視

[ojiro.tomomi@mail.u-tokyo.ac.jp](mailto:ojiro.tomomi@mail.u-tokyo.ac.jp)

# ワーゲニンゲン大学

## オランダ(ワーゲニンゲン)

クックブック: 5.3. ワーゲニンゲン大学のデータスチュワード(pp. 101-104)

<質問票の送付・回答、Zoomでのインタビューを実施済>

# WURの概要

- 正式名称(英)は「Wageningen University & Research (WUR)」
- 1918年に高等教育機関として認可
  - 1876年に設立された農業学校が前身
- 農業、食品科学、ライフサイエンスに強み
- 5つのサイエンス・グループ
  - 各グループのもとにUniversityは議長グループ、Researchはビジネスユニットを持つ
- 教職員:7,200人、学生:13,200人



# WURデータポリシー

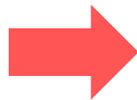
---

- [Data policy at WUR](#) (2018年1月策定)
- 研究サイクル全体における研究データの扱いを規定
  - データを安全に保ち、アクセス可能とすることを重視
- WURとの契約に基づき教職員に適用される
  - 学生の場合、指導教員との間に合意がなければ適用されない
- FAIR原則やオランダの「[研究公正のための行動規範](#)」などに基づく

# WURデータポリシーが求めること

---

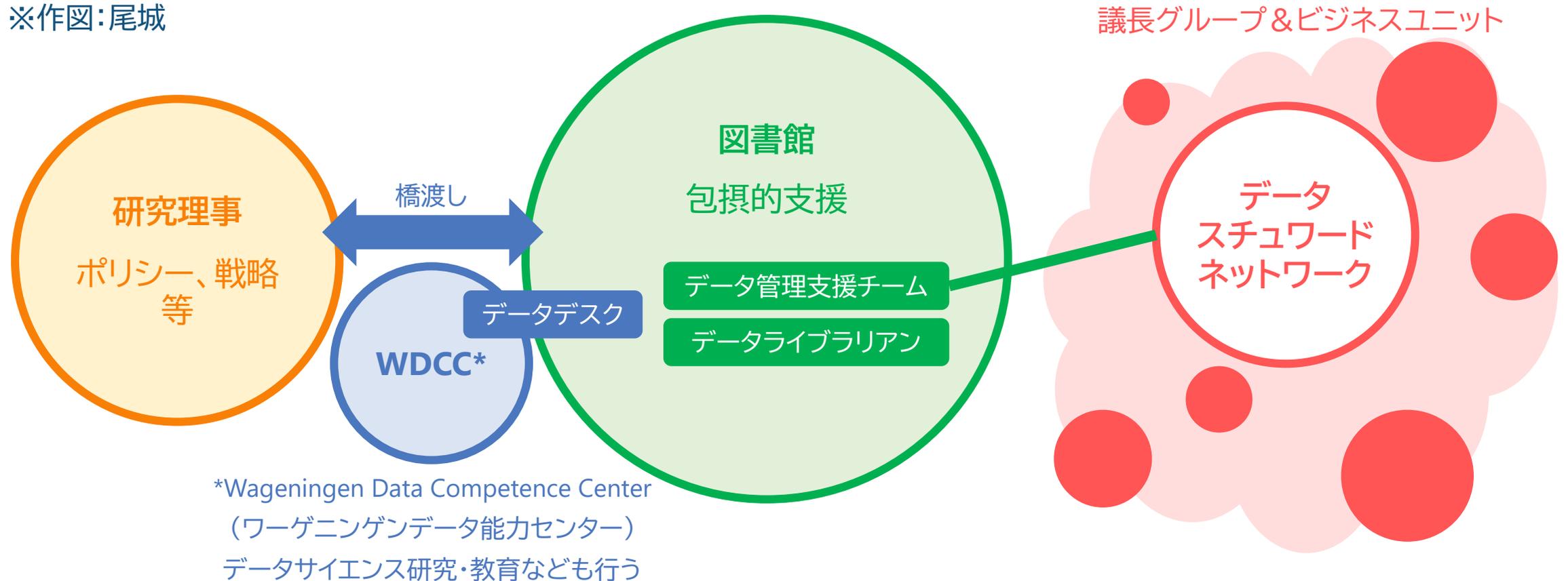
- 議長グループ(chair group)はデータ管理プロトコルを定めること
- 博士候補生(PhD candidates)はデータ管理プランを立てること
- データを安全で共有可能な環境に保存すること
- 出版物の根拠となるデータは最低10年間はアーカイブすること
- データをPureに登録すること



データ管理プロトコルやデータ管理プランのテンプレートが公開されている。  
特に前者は、学部ごとに異なるポリシーを策定するような場合の参考になりそう。  
▶ [Research data management protocols & plans](#)

# WURの研究データ管理支援の全体像

※作図:尾城



# データ管理支援チーム

---

- 研究サイクル全体を通じた包摂的な支援を行う
- チームメンバーは4名
  - 研究データ管理コーディネーター(WDCCと兼務、橋渡し役)
  - 研究データマネジャー2名
  - データスチュワード・ネットワーク・コーディネーター
- それぞれ異なる分野での研究経験あり(修士号・博士号取得者)
- 研究データ管理の専門的な教育を受けたわけではない
- 法務担当やIT担当、データライブラリアンとも協力

## Bibliometrics, Data management, Open Access



JRD (Joost) Albers MSc  
Coordinator data steward network



dr.ir. PMJ (Ellen) Fest  
Bibliometrics



dr. SM (Shauna) Ní Fhlaithearta  
Research Data Management



FEM (Femke) Geysen MSc  
Research support; Bibliometrics



OLM (Oriane) Guerin  
Bibliometrics



dr.ir. CWPM (Chantal) Hukkelhoven  
Open Science and Open Access



dr.ir. DB (Danny) de Koning  
Research Data Management



dr. IC (Irene) Verhagen  
Research Data Management



H (Henriek) van Lieshout-Tonkes



A (Aquila) Weijers

  
今回調査に協力してくれたIreneさん

<https://www.wur.nl/en/library/researchers/library-support.htm>

# チームによる支援メニューの例

---

- データデスク
  - データ管理の実践的な事柄についての質問窓口
- 博士課程 & ポスドク向けのトレーニングコース
  - 年4回開催 / 3時間×3日間 = 計9時間のプログラム
  - 受講費用: 最低120ユーロ(!)
  - 研究データ管理プランのテンプレートに沿った内容 → プランを完成させられる!
    - データ管理とは / 保存場所 / 整理 / 文書化 / 公開 etc.

# データスチュワード・プログラム

---

- 研究者にとって負担の少ないデータ管理体制を目指し、2018年に開始
- 各議長グループ、ビジネスユニットにデータスチュワードを配置
- 分野ごとの研究データ管理に関する最初の質問・相談窓口
- 2022年12月時点で約150名(！)
- 専門分野が異なるのはもちろん、データ管理に関する習熟度も様々  
→データスチュワード向けの講義やワークショップを実施
- 継続性が課題の一つ...

# データスチュワードはどんな人？

---

- テクニカルサポートの担当者や上級研究者など様々
- グループの責任者に任命される
  - 自発的な場合もあれば、ポジション的に任命される場合も
- データスチュワードに対する報奨はないが、グループ内での役割は明確化される

データスチュワード・プログラムに  
参加するメリットは？

- コミュニティに参加できること  
(一人じゃないよ)
- トレーニングやサポートがあること
- きちんと役割が認められること

確かにいかにも「データに詳しい人」に仕事や相談が集中し、  
属人化&孤立化しそう...日本でも、全学的なネットワークや、  
その人たちをサポートする仕組みがゆくゆくは必要かも。

主にデータチャンピオンに  
ついてまとめています

# ケンブリッジ大学

## イギリス(ケンブリッジ)

クックブック: 5.1. ケンブリッジ大学のデータチャンピオン・プログラム(pp. 91-95)

< 質問票の送付・回答済 >

# ケンブリッジ大学の概要

---

- 言わずと知れた世界屈指の名門大学
  - 1209年設立、最古の大学の一つ
- 31のカレッジ、6のスクール、100以上の学部を持つ総合大学
- 教職員:12,440人、学生:24,270人

*Hinc lucem et pocula sacra*  
(ここから光と神聖な盃を)

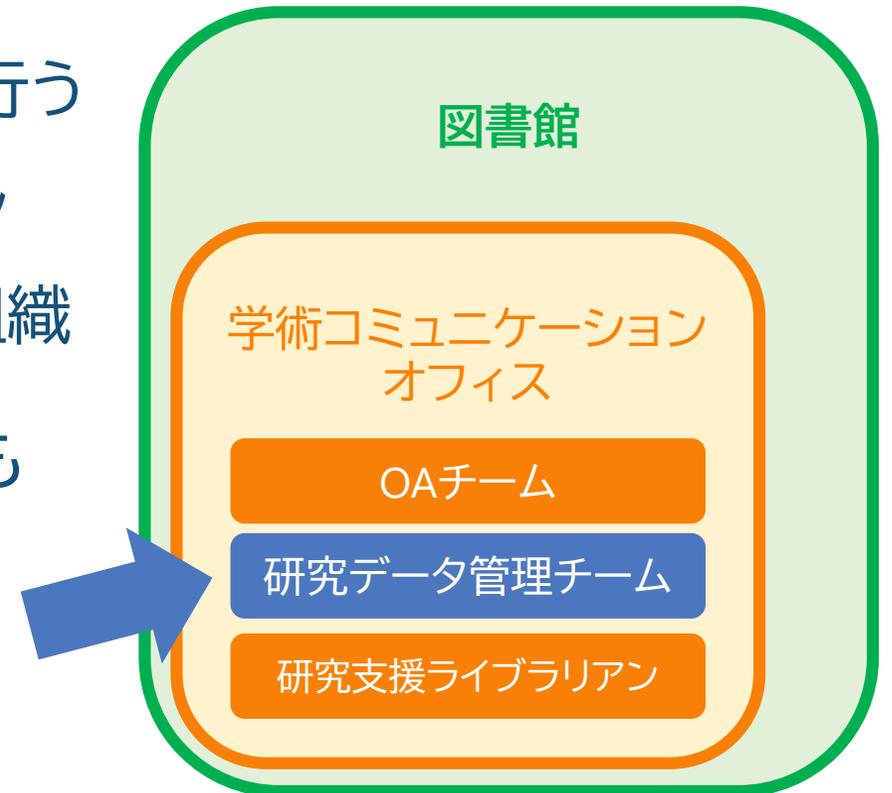
# ケンブリッジ大学の研究データポリシー

---

- [University of Cambridge Research Data Management Policy Framework](#) (制定: 2015年4月、最終更新: 2021年2月)
- 研究データの管理・共有について、研究者と学生にガイダンスを提供するもの
- 研究者、学生とケンブリッジ大学の研究を支援する全ての人を対象
- 英国の「[オープンデータ協定](#)」やFAIR原則に基づく

# ケンブリッジ大学の研究データ管理支援

- 研究データ管理チームが中心
  - 研究データの管理と共有のための支援を行う
  - 学術コミュニケーションオフィスはオープンリサーチと関連サービスに焦点を当てた組織
- 各スクール、学部の図書館の図書館員もRDMトレーニングを提供



# 研究データ管理チーム

---

- フルタイム・常勤が2名
  - 研究データマネジャー: チームリーダー ← 今回調査に協力してくれたSachaさん
  - 研究データコーディネーター(空席): データチャンピオンプログラムの運用
  - 他、Research Librarian、Scholarly Communication Assistantが1名ずつ
  - 研究データコーディネーター2名を募集中
- データ管理ガイドのページで包括的な情報を発信
- 教職員向けのトレーニングやDMPへのアドバイス、オンデマンドで相談にも応じる

# データチャンピオン・プログラム

---

- データチャンピオン:自身が所属する研究コミュニティのメンバーに適切な研究データの扱いについてアドバイスをするボランティア
- 学内に約180名(年間を通して増減あり)
- 2016年にプログラムを設立
  - OSCのみでは研究コミュニティの規模・幅広い研究分野に対応できない
  - 学内の研究コミュニティに学問分野に対応した支援やトレーニング、アドバイスを提供するためのスキル、専門知識を備えた“ローカル”データチャンピオンを配置
- データチャンピオンのネットワークを形成し、トレーニングの機会を提供

# ケンブリッジのデータチャンピオンはどんな人？

---

- 博士課程の学生、講師、主任調査員、**図書館員**、データ専門家、IT職など
- 6割は博士課程の学生とポスドク研究者
- 毎年公募でメンバーを集めている

Q: データチャンピオンになるには、どのような経験やスキルが必要ですか？

A: RDMに興味があり、他の人が研究データを管理および共有するのを支援するために自発的に時間を割いてくれる人を探している。すべての応募者がRDMの専門家であることは期待していない。このテーマについて学び、スキルを伸ばすことに関心があって熱心な人を求めている。

# データチャンピオンには図書館員も！

---

- データチャンピオンとしての活動は、基本的に図書館の活動とは別のもの。
- 研究支援の役割を担っている図書館員は、それぞれの図書館でRDM支援等を行っている場合も。

Q: プログラムにとって図書館員が参加することの利点または重要性は何ですか？

A: 図書館員はプログラムに深く関与し、他のデータチャンピオンや、研究者・学生へのサポートに積極的。研究コミュニティ内での活動の火付け役や調整も。

Q: 図書館員が伝統的に培ってきた経験やスキルは、データチャンピオンに求められる資質に関係していると思いますか？

A: **Yes.** なぜなら、他の人をサポートするのに役立つ情報スキルと資質に重点が置かれているから。

# 調査を行ってみて...

---

- 両者ともウェブサイトで得られる情報が豊富
- WURの場合、オランダ語と英語のバイリンガル仕様
- とても協力的&オープンマインド
- 日本はデータ管理先進国ではないけれど、進捗を発信していくことはRDMコミュニティ全体への恩返し・貢献になるのかも
- コミュニティへの参加...英語での発信...増やしていきましょう